

2022年度 環境科学部フィールドスクール (11/5・12/3)

「長崎の獣害対策—地域資源としての野生動物の活かし方」が行われました。

2022年11月5日(土)(入門コース)と12月3日(土)(応用コース)では、長崎県農林部、諫早猟友会、諫早猪処理販売センターの方々のご協力を賜り、鳥獣被害の実態と対策の現状と課題、捕獲されたイノシシの解体や、被害地域の視察や罠のかけ方などを体験する実習を行いました。

昨年に引き続き、初参加の学生を主な対象とするコース(11/5実施)と、狩猟免許取得者や2回目以上の参加者を対象とする応用コース(12/3実施)に分けて実施しました。どちらも事前に獣害問題について各自で学習を行ってもらい、自分達で解体したイノシシ肉は持ち帰り、各自で調理に挑戦してもらうところまでを実習内容としています。

11/5の入門コースでは、午前中に長崎県農林技術開発センター(諫早市)を訪問し、長崎県の鳥獣害担当者や諫早猪処理販売センターの方より、獣害問題とその対策の現状について解説いただきました(写真1)。午後は諫早市猟友会会長のご協力により、イノシシの止め刺し(とめさし)の様子を見学させていただきました(写真2)、その後は猪解体処理センターにてご指導をいただきながらイノシシを学生たちの手で解体しました(写真3)。また解体した肉は各自で持ち帰り、レシピも作成してもらいました。

12/3の応用コースでは、午前中に諫早市干拓公園でイノシシの生息状況や被害状況などを確認し、くくり罠や箱罠のかけかたを体験させていただきました(写真4)。午後は従事者との交流や中央干拓付近の自然観察なども行いました。



写真1：獣害問題の現状や対策の方法を学ぶ(11/5)
(長崎県農林技術開発センター)



写真2：イノシシの止め刺しの様子を見学(11/5)



写真3：イノシシの解体体験(11/5)
(猪解体処理センター)



写真4：罠のかけ方を体験(12/3)
(諫早市中央干拓)